
親友が異世界に召還されました

帆乃女

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

親友が異世界に召還されました

【Nコード】

N2464S

【作者名】

帆乃女

【あらすじ】

よくある異世界召還で元の世界に残された人を書いてみました

結果、異世界に行った人は戻ってくる

その後、色々起きる

それで良ければ、読んでください

俺の親友（18歳・）は頭も運動神経も顔も性格も良かった

さらに言えば、家はこの辺りの地主だ

その上、高校では生徒会長もやっている

それなのに、一般家庭の俺と幼馴染だ

この優良物件を女たちが見逃すはずも無く、俺はそれに巻き込まれて結構ヒドイ目にあっている

それでも俺は親友のことを大切にしていたと思う……………たぶん

面倒事はキライだが、面白い事は別だ

親友と一緒にいると、面白いイベントがジャンジャンやってくる

と、最初はポジティブに考えていた

親友と一緒にいて、面倒なイベントしか俺には回まわってこない

そう、気付いたのは小学3年生のことだ

そろそろ自己紹介しよう

俺の名前は 笹木ささき 陽太郎よしたろう 18歳

親友が 華京院かきょういん 龍之介りゅうのすけ

いかにもマンガや小説に出てきそうな名前だろ

そんな神様に愛されてる親友は、あの日、異世界へと旅立った

あの日、高校1年目の1学期の終了式だった

その日の帰り、生徒役員で遅くなった龍之介を待っていたため、午
前授業だったはずが帰るのが3時になってしまった

それでも、こんなに遅くなったのはもう1つ理由がある

やはり、長い休みの前には告白が絶えない

今日が終了式なだけあって、毎日10〜15人ぐらいに告白される龍之介が30人ほどに告白された

まあ、全員フラれたんだけどな

「友達から始めよう、かあ。付き合う気、無いくせに」

俺は隣に歩いている龍に言った

「しょうがないだろ。好きじゃないんだから」

たぶん、コイツの彼女のハードルはメチャクチャ高いだろう

そんでもって、俺の好きだった人やら周^{まわ}りの人は皆^{みんな}、龍に取られちまう……

「そっぴやあ、前にスゴイ子がいたよな。陽に呪いかけた子」

‘陽’とは、俺の名前の略だ。2人とも長いから俺はアイツを龍、アイツは俺を陽と呼んでいる

「女って怖いよな。逆恨みさかみで呪いまじないかけられた俺の身にもなってくれよ。なんで、フツた龍じゃなくて俺が呪われるんだよ」

以前、龍にフラれた子で一緒にいる俺を逆恨みして俺を呪った子がいた

なんか、近所の御神木ごしんぼくにワラ人形が釘くぎで打ち付けてあって、そのワラ人形に俺の顔写真が貼ってあった。さらに、ワラ人形の右ひじ部分から下が無かった

そのせいなのか、ワラ人形を発見した翌日、俺の右手から右ひじにかけて奇妙な斑模様まだらもようの痣あざができていた。痛みは無く、普通に動くが、時々激痛とまどきがはしる

あまり他人に見せないため、俺はその部分に包帯を巻いており、水泳などは極力きょくりょくやらないようにしている

余談だが、包帯も見せたくないのだから出来るだけ左手を使っていたら両利きりょうきになった

俺に呪いをかけた女の子は自分から龍に暴露した

『私があのお邪魔虫を呪い殺したら2人でデートでも行こうか』

という風に

「あん時は悪^{わる}かったって！あの子も悪^{わる}気があつたわけじゃないんだから。俺が『もう陽に呪いをかけるのを止める』って言ったら止めたじゃんか」

悪気が無かつたら人のこと呪い殺そうとなんてしねーよ

と、心の中でツッコむ

「まったく……龍はいつもお人好^{ひんよし}しだよな」

「お人好^{ひんよし}しって……俺ってそんな風に見られてんのか？……だって困ってる人を放っておけないじゃないか」

それが‘お人好^{ひんよし}’だっつーの！と、また心の中でツッコむ

「なあ…今なんか聞こえなかったか？…その…助けて…」
いきなり龍がそう言ってきた

「ハア？聞こえてねーよ……お前って電波だったっけ？」

「なんだとおお！おかしいな…たしかに聞こえたんだけど……」

俺には聞こえてなかったしな

もしや、幽霊とか？俺には靈感なんて無いから分かんねーけど、龍なら灵感の1つや2つあったっておかしくない

なんたって、神様に愛されてるからなあ

だから、彼は面倒事に巻き込まれない

なら、誰が彼の代わりとなる？

いつも、俺だ

そんなことを考えながら、俺は何気無く足下あしもとを見た……………

……………見てはいけないモノを見てしまった……………

「陽！陽！今、ハッキリと聞こえたんだよ！女の子の声で、助けて、って！」

龍はそう言いながら俺に一生懸命に訴えてくる

いつもの俺なら「本格的に電波なのか？」とか言ってると思うけれど、足下のアレを見ちまったらなんも言えねえよ……………

「おい陽！聞いてんのかッ！」

龍が怒鳴ってきた……………

俺は心の中で舌打ちをする

「うるせえなあ……………龍、足下見ろ」

「へ？足下……………な！？なんなんだよコレ！？？」

俺たちの足下にあつたのは……………魔方阵だ

「どつやら龍を中心に描えがかれてるようだな……………なんかうみ ーこに出
てきそうな……………」

「何冷静に言つてんだよッ！」

魔方阵は直径4メートルぐらいのもので、俺も一応円の中に入つて
いた

「よつと……………」

俺は龍から距離をとつて魔方阵から離れてみる

「あっ！ズリイよ！俺も出てえよ！一人で逃げんな！一緒に異世界
行こうぜ！？」

「嫌。面倒そうだから」

龍が俺を追って動くと、魔方陣はそれに合わせて動く

「どうやら狙いはあくまで龍1人らしい……………」

「嫌、ってなあ…………お前、面白い事好きじゃんか。異世界もきつと面白いぜ！な？一緒に行くぜ」

龍は必死で俺を説得しようとする

お前がいる時点で面白いイベントは全部お前の方に行つて、俺の方には面倒事しか残らないと思うけどなッ！

「大丈夫だ。異世界で龍は勇者やって魔王倒して、姫巫女兼王女様と結婚するかハーレム作るんだろうな……………オメデトウ」

「オメデトウって……………ああ、分かってたさ。お前はこういう奴だった。だから！無理矢理でも連れて行く！！！」

龍は何を思ったのか、そう叫ぶと全速力で俺の方へ疾走してきた

.....速ッ!?!?!

「なっ!?!? 龍.....もしやお前、俺をムリヤリ魔方陣の中に入れて一緒に異世界召還ってワケか!?!?」

「よく気付いたな!?!?さすが、我が親友!?!?」

俺は逃げた

走った

転んだ

駆けた

疾走した

そうして、俺は生まれてから初めて龍に勝った

逃げ切ったのだ

なんか途中で龍が

「陽ッ! 俺より足遅いくせに、なんで逃げ足は速えんだッ!.....チクシヨオオオオオオオオオ!?!?!?」

とか叫んでたけど無視だ

龍は異世界へと旅立った

「これで、俺にも面白い出来事イベントが起きる。もう……女に呪われ無くてすむ」

俺は生まれて初めて嬉し涙うれを流して家へと帰った

（夜9時頃）

夕食を食べ終わった頃、家の電話が鳴った

「はい、笹木ですけれど……えっ？龍之介君が？……うちには来ていませんが……ええ、そうします」

どうやら龍の家かららしい

母さんは俺たすに尋ねてきた

「陽太郎、龍之介君が家に帰ってないんだって。アンタ、何か知ってる?」

「異世界へと旅立った」とはさすがに言えない

「龍なら山に籠^こもって修行するとか言ってたよ。ほら、明日から夏休みだから」

「あら、そうなの。……………ええ、龍之介君は山に修行に行ったそうです。……………ええ、明日から休みだからじゃないか、って陽太郎は言ってます。……………ええ、龍之介君はしっかりとした子だから大丈夫ですよ……………ええ、お大事に」

母さんは受話器を置いて俺に一言

「アンタも山に修行に行ってきたら?」

死んでもゴメンだ

あれから数週間が過ぎ、俺は幸せな日々を送っていた

夏休みが終わる前日、アイツは帰ってきた

「俺の武勇伝、聞かね？」

龍はそう言った……………もちろん、ゴメンだね

とは言わず

「龍、帰ってきたんだ……………結婚しなかったんだね……………ザマ
三口……………」

「ん？最後のほう、よく聞こえなかったんだが……………」

「気のせいだよ。それより、俺に武勇伝聞かせる前に宿題やれば？
ちなみに俺はもう終わってるけど、見せないから」

俺がそう言うと、龍はサラッとこんなことを言った

「あ？宿題なら昨日終わらせたぜ。昨日の午前に帰ってきてな、午
後いっぱい宿題終わらせたから、陽に会えなかったんだ」

龍は俺に嫌われたらしい……俺は宿題を2週間半かけて終わらせ
たぜ……ハハハ

俺はおとなしく龍の武勇伝（自慢話）を聞いた

曰く 異世界では魔法が使える

曰く 龍を召還した理由は「魔王退治」

曰く 龍は魔王を倒した瞬間になぜか自分の部屋にいたらしい……
異世界に送り込まれたときの服装で

「魔王を倒して、やったあ！」て気持ちになったと思ったら自分の部屋にいたんだぜ!? 『え? 今までの夢? っと思っただき! でも母様が』あら、帰ってきていたの?』 っと言った時はビビッたぜ!? 俺が山に修行しに行ってた、っていう話になってたんだな〜

残念なのが、異世界で覚えた魔法が使えるーことと、異世界で鍛えたはずの俺の肉体がもとにもどってることだな〜……………でも、王女様とも結構うまくいってたんだぞあ……………陽、分かるか? お前にこの俺の気持ち分かるか?……………分かんねえだろ? 悲しいなあ……………俺はお前の気持ちが分かるのに、なんでお前は俺の気持ちが分からないんだ? コレも神様の試練ってやつなのか?……………あああああ、なんて歪こじな友情関係なんだろうな……………どうして神様はこんなにツライ試練を俺達に与えるんだろうな……………」

……………はなしなが話長ッ! ……そしてウザッ!

なんなのコイツ!? 俺の気持ちが分かるのなら、今すぐ俺の部屋から出て行けよッ!

……………
「ウザ(ボソリ)」

「え? 陽、なんか言ったか?」

「空耳じゃないの？」

あつぶねー！口から俺の本音が漏れてたよ

「ああ、神様ッ！どうかもう1度、もう1度だけ異世界へ連れて行ってください！」

龍はそう言つと、天井に向かって拝み始めた

その必死さに耐えられなくなり、俺は笑い始めた

「アッ！コラ、陽も拝めッ！」

「プツククククク……………嫌」

龍は面倒だけど、隣にいて厭きないから、嫌ではないよ

（8年後）

龍は今、自分で立ち上げた会社の社長をしている

しかも、その会社は現在の大手の会社を抜いてしまっている

雑誌には“敏腕イケメン社長”だなんて紹介されてる

そして、俺は龍の会社の副社長をやっている……………誘われ
たんだよッ！龍に！

俺はその日、龍の趣味の散歩に付き合っていた

「いや、天気の良い日の散歩って気持ち良いよなあ……………陽もそ
う思うだろ?」

「同感……………ふわあ……………ねみい……………」

「ねみい、ってお前なあ……………」

何気無く、俺が車道を見ると、赤信号なのに歩道を歩いている女の
子がいた

猛スピードで迫る大型トラック

「行くぞツ！陽ツ！！」

……………え?

龍は走る

女の子めがけて

俺の手を掴^{つか}み

なんで俺まで道ずれに！？まさか、8年前のアレを根に持っていたのか！！？

その時、俺の横を何かが通り過ぎて行った

高校生くらいの男の子だ

俺と龍と男の子が女の子を突き飛ばした

いや、正確には男の子の方が速かった

俺と龍……………いらなかったカモ

でも、女の子を助けるのに夢中で龍は男の子に気付かなかったみたいだ

まあ、それは向こうの男の子も同じだけど

俺は気が付くと、真っ白な部屋のベッドに横たわっていた

いや、ここ病院でしょ

俺は痛む体をムリヤリ動かしてナースコールを押した

程なくして医者と看護婦さんが現れた

「ここは病院ですよ。分かりますか？」

分かってなかったらナースコールなんて押さないよ

俺は口を動かすのもツラかったから、小さく頷うなづいた

「」家族呼びますね」

ほどなくして母が来た

母さんと医者の話によると、あの交通事故で高校生と龍は即死、俺は植物状態で2ヶ月もの間眠^{あいた}っていた

龍の葬儀はもう終わったらしい……………そりゃそうか

俺は目覚めることは絶望的だと言われてたらしい

母さんが泣いていたことが分かった

目が真っ赤だ

「ありがとう……………母さん」

「何言ってるのよ。あなたは私の大事な、大切な、息子ですよ」

あれ……………俺って案外マザコンかも……………

俺は数ヶ月間、傷を治したりリハビリしたりして退院した

会社は龍の実家に吸収されたらしい……………俺、無職じゃん

久々の我が家だ

やっぱり病院より我が家の方が落ち着くなあ

「暇、だなあ……………」

俺はリビングのソファに座り、コーヒーを飲みながらつぶやいた

「暇なら夕飯の買出しに行ってきたよ〜今日、あなたの退院祝いやるんだから」

専業主婦の母さんが俺の横にあるソファに座って俺に言ってきた

オイオイ、それでまた交通事故に会ったらどうするつもりですかい

てか、それ当人にやらせるものじゃないでしょーが

「ハイ、コレ買う物のメモ」

母さんは小さなメモ用紙を俺に渡す

どうやら俺には拒否権というものが存在しないようだ

おれは重い腰をあげて家を出た

町を歩く 久しぶりの商店街を通り過ぎる

あ、あそこ俺達が轢かれた場所だ

その横断歩道を歩いている3歳くらいの男の子

その男の子に迫る大型トラック

……え？……マジっすか！？……何コレ……

俺がボーっとしている間に中学生の女の子が男の子めがけて突っ込んで行った

キキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキ

かん高いブレーキの音

この町、なんて交通事故が多いんだろう……

救急車はもうほかの人が呼んでいる

俺は野次馬のようなマネはせず、そのまま歩き始める

「キヤアアアアア、上！うええええ」

誰かが叫ぶ……………上？

俺が上を見上げると、そこにあっただのは……………看板？

次の瞬間、俺は激しい痛みに襲われた

• • •

気が付くと、俺は白い空間にいた

もしや……………

「そう、そのもしや」

俺の後ろから声が聞こえてくる

「お前、誰だ？」

俺が後ろを振り向くと、そこには黒いローブを羽織^はって、フードを深くかぶっている見た目年齢（身長）12〜15歳くらいの子供がいた

さっきの声からして、性別は男

このお決まりのパターン……………もしや、神とか死神とか天使とか名乗るんじゃないだろうな

「そうですよ。僕は死神、死を管轄する神」

ああ……………やっぱり……………

「驚かないんですね。君のまえの中学生も、その前のイケメンの子も、その前の高校生の子も驚きませんでしたし……………つまりない」

中学生にイケメンに高校生……………思い当たる節が…

「そつえば、ここはどこだ？なんで俺はここにいてる？」

「ここは世界と世界のハザマ。そして、ここに君を呼んだ理由は……」

「理由は？……早く言えよ」

死神はためにためてから言った

「イケメンの子に頼まれたんですよ」

……… ああ …… 人生の最後の最後にアイツ、良い事
してくれたなあ ……

「あのイケメンの子はね、異世界で勇者の役目を見事、果たしたから、死後好きな願いを10個叶える事が出来るんですよ。それで、あの子は『俺の幼馴染も前世の記憶を持ったまま同じ世界に転生させてくれ』ってさ。いいですねえ、男の友情」

……龍…… 良い事したと思ったら、アイツと同じ世界かよ…… あ、でも「同じ時間」とは言っただけじゃなかったな……

「そおんな男の篤い友情あつに感動した、この僕が同じ時間、同じ時刻、近い場所に転生させて差し上げましょう！」

クソウ…… 死神イ！…… 余計なことすんじゃねえよ……

「そつえば、転生する世界ってどんな世界なんだ？」

俺の問いに死神は「よくぞ聞いてくれた」的な顔をした

「それはねえ、イケメンの子のリクエストで魔法がある世界さ。……あ、でも、イケメンの子が救った世界とはまた違う世界だけだね」

やっぱり…… 龍の好きそうな世界だ

でも、龍が助けた世界じゃないのって意外だ…… だって、あんなに「行きたい、行きたい」って言ったのに

「それで、イケメンの子が君に特殊能力もつけてくれ。こつこつこの

は、あのクソジジイ……………じゃなかった、アルフレム（変態）の仕事だっというのに……………まあ、僕もある程度はできるけどね。ちなみにイケメンの子の能力は「身体強化」「創造具現化能力」「不老不死」ですよ」

他の2つは分かるが、不老不死って反則じゃないか？

あゝ俺の能力どうしよう……………

「何言ってるん君。君の能力もイケメンの子が決めちゃったよ」

なぬう！？アイツ、何がしたいんだ！？？

っていうか、俺の思ってることが分かるのか……………

やっぱりコレよくあるベタな展開だ

「たしか、君の能力は……………」

「俺の能力は？早く言えよ」

「君の能力は……………忘れちゃった」

……………ハア!? 「じゃねーだろ」「じゃあ

「だってえ、君の前の中学生が暴力的だったんだもん ミ」

「ミ、じゃねーだろ」「ミ、じゃあ

って、どーするんだよッ!

「まあまあ落ち着いてって、イケメンの子が知ってるから、転生してから直接聞けばいいじゃん」

それは転生してからも龍に会いに行けっことですかい

「っつてことで転生させますよ〜」

死神が右手を前に突き出すと、俺の足下が凹み始めた

そのまま俺の体は沈み続ける

そして、俺の意識が途切れる寸前に死神が呟いた

「ここにも幼馴染に振り回される人間が1人いたか」

…ああ、俺のほかにもいるのか……………似たような境遇の奴が……………

……………

(後書き)

読んでくださってありがとうございます

誤字、脱字等があれば感想にて教えてください

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2464s/>

親友が異世界に召還されました

2011年10月8日03時53分発行